

横山ゆずり作 「はるかない、我がザルツブルク」

効果音 (飛行機の爆音)

機長 機長からご案内いたします。当機は、ただいま高度1万メートルでアルプス山脈上空を通過中です。あと30分ほどでウイーンに到着の予定です。

フライトアテンダント 皆様、お疲れさまでした。当機は間もなく、オーストリアの首都、ウイーン国際空港に到着いたします。どなた様も、安全ベルトをお締めください。Attention please. Ladies and Gentlemen, this plane will be landing soon at Vienna International Airport. Please fasten your seatbelt and... (FO)

里美 どうとう来たんだわ、あこがれのオーストリアに！ あ、見えてきた。あれがウイーンの森かな。ウソみたい！ 写真で見たのとおんなじ。

音楽 (「ウイーンの森の物語」)

里美 (日記を読む) 3月26日、金曜日。快晴。午前9時37分、ついにウイーンに到着。ほんとに今、ウイーンにいるなんて、夢のようだ。花の都、音楽の都、そして、ウイーン少年合唱団や、あの映画「第三の男」の大観覧車。いつかはきっと訪れたいと思っていたあこがれの街。でも、こんなに早く来られるなんて…。とにかくすてきな旅行になりそうな予感がする。そして…。

敦子 里美！ 早く！ 置いてくわよ。

里美 とりあえず、今日の日記はここまで。待って、敦子ってば！

ナレーション 里美と敦子は、大の仲良し二人組。高校生活最後の春休みを利用して、オーストリアにいる里美の叔父を訪ね、はるばる日本からやってきたのです。

里美 ねえ、敦子。すごいよ。みんなドイツ語しゃべってる！

敦子 バッカねえ。当たり前じゃない。ここはウイーンよ。それよかさあ。わたしたち、注目を浴びてるのよ。里美、あんまり興奮して騒がないでよね。

里美 ごめんごめん。ねえ、今日は絶対に夜、音楽会に行こうよ。ね！

敦子 分かったってば。とにかく迎えの叔父さん、探そうよ。

里美の叔父 お～い、里美ちゃん。ここだよ！

里美 あ、叔父さん！

敦子 こんにちは！

叔父 よく来たね、二人とも。1週間、十分に楽しんでいきなさい。

里美 よろしくお願ひします。

敦子 お願ひします。

里美(日記) 叔父さんの車で、ウイーンの内市を見て歩いた。街並みがとっても古めかしくて、すてき。街行く人たちは、みんな重いコートに帽子をかぶっている。それにしても、外人って、なんて足が長いんだろう。絵になるなあ。ああ、あの高い塔の教会が、聖ステファン寺院だ。…ここは公園。あちこちに音楽家の銅像が建っている。ベートーヴェン、マーラー、それにシューベルト！ さすが音楽の都だ。敦子はさっきから道行く人のファッションに、ため息をついている。

敦子 ねえ、里美。みんなスカートの使い方がナウいと思わない？

里美 そりゃあ、スタイルが違うもん。わたしたちなんか、小学生ぐらいに見られたりしてね。

叔父 (笑い) 里美ちゃんたち、あしたは少し足を伸ばして、ザルツブルクまで行ってみようか。ほら、あの「サウンド・オブ・ミュージック」って映画、知ってるだろう？ あの舞台になったところだよ。

里美 わあー！

敦子 キャー、うれしい！

里美 「サウンド・オブ・ミュージック」って、あの、“エーデルワイス”や“ドレミの歌”のでしょう？ わたし、あの映画、3回も見に行っちゃった。

敦子 わたしも。それにさ、里美。ザルツブルクと言ったら、モーツァルトが生まれたところじゃない？

叔父 そうだよ。よく知ってるねえ。モーツァルトの生まれた家や、博物館もあるんだよ。

里美(日記) 3月28日、土曜日。晴れ。

音楽 (「サウンド・オブ・ミュージック」)

里美(日記) ウィーンの森を抜けて、高速道路をザルツブルクへまっしぐら。映画で見たそのままの風景が目飛び込んでくる。すれ違う人たち、言葉は分からないけれど、ほほえみかけてくれる。わたしたちも思わずつられて、笑い返してしまう。ロマンスグレイのすてきな紳士と一緒に写真を撮ってしまった。感激！今夜は、ザルツブルクのホテルに泊まる。あしたの日曜日は、叔父さん、どこに連れてってくれるのかなあ。

効果音 (教会の鐘)

叔父 やあ、おはよう。今日は教会に行くからね。10時までには用意をしておいで。

里美 ええ！ 教会に行くの？ (モノローグ) そう言えば、叔父さん、クリスチャンだっけ。でも、せっかくの日曜日なのに。

叔父 街へ出たって、日曜はどうせどこも休みだよ。午後からゆっくり散歩しよう。

里美、敦子 はい。

効果音 (礼拝。ドイツ語の「主の祈り」)

敦子 (小声で) 里美、何言ってるか、分かる？

里美 (小声で) 分かるはずないでしょ？ それよりさ、あそこの人、えっと、2列目の右から3番目の人、カッコいいと思わない？ あ、こっち向いた。

敦子 (小声で) どどここ？ キャー、すてき～！

叔父 (小声で) 静かに聞いてなさい。

効果音 (礼拝賛美、説教。礼拝終わる)

里美 叔父さん、これからね、敦子と二人で散歩してきていい？

叔父 二人でかい？ 大丈夫かい？

里美 平気よ。(敦子に) ね？

叔父 それじゃ、気をつけるんだよ。

里美 はい。じゃあ行ってきます。

敦子 行ってきます。

効果音 (街の中。ヴァイオリンBGM)

敦子 やったね、里美。気ままな二人旅だよ。

里美 うん。ねえ、あっちのほうで、だれかヴァイオリンを弾いてるみたい。行ってみようよ。

敦子 ほんとだ。街中が音楽であふれてるって感じね。あら、モーツァルトの絵はがき売ってる。あ、キーホルダーもある。ねえ、お土産に買ってかない？

里美 あ！

敦子 どうしたの、里美？

里美 忘れちゃったあ！

敦子 何を？

里美 お財布。それと、時計とバッグごと全部どっかに忘れてきちゃった。

敦子 パスポートは？

里美 パスポートは叔父さんに預けてあるけど…。

敦子 落ち着いて思い出すのよ。いつまで持ってた？ 行きの車は？

里美 …持ってた。

敦子 じゃあ、教会出る時は？

里美 えーと、たぶん…。

敦子 たぶん?!

里美 分かんないよお。

敦子 しっかり思い出してよ。まったくトロいんだから、里美は！

里美 そんなこと言ったって。

敦子 とにかく、ホテルに帰って叔父さんに話してみようよ。

効果音 (ホテルの叔父の部屋をノックする)

里美 叔父さん、叔父さん！

叔父 やあ、お帰り。早かったじゃないか。

里美 叔父さん、わたし…。

叔父 ん？ どうした？(笑って)これかい？

里美 あ、わたしのバッグ！

敦子 里美のバッグ！

里美 叔父さん、どうしてそれ…？

叔父 (笑う)実はね、ついさっき、この方が届けてくださったんだよ。教会に忘れてあるのを見つけてね。あ、この人、さっき里美が教会で「カッコいい」って言ってた人じゃない。

里美 ウソみたい…。

叔父 うん、バッグの中にね、ホテルのカードがあったので分かったそうさ。ほら、ちゃんとお礼を言いなさい。

里美 あっ。ありがとうございました。

ドイツの青年 (ドイツ語)

里美 なんて言ってるの？

叔父 ああ。「お役に立ててうれしい。日本から来たかわいいお嬢さんたちと一緒に、神様を礼拝できて感謝です」って。

ドイツの青年 (ドイツ語)

叔父 えー、「住む国は違っても、わたしたちは神様にあって同じ家族、兄弟姉妹なんだから。」

里美 「神様にあって同じ家族」？「兄弟」？ だからこんなに親切にしてくれたの？

ドイツの青年 (ドイツ語「…アウフビーターゼーン」)

里美 あ、ありがとう。ほんとにありがとう。ダ、ダンケシェーン！
ドイツの青年 ビッテシェーン(どういたしまして)。
音楽 (エンドBGM「サウンド・オブ・ミュージック」「ドレミの歌」ほか)
里美(日記) ほんとにすばらしい旅だった。日本に帰っても、決して忘れられない。美しい街、そして親切
 な人々。いつかきっと再び訪れる日まで、さよなら、わたしのザルツブルク。さよなら、わたし
 の兄弟！

<完>